



集団リハビリテーションで「園芸祭り」が開催されました

◆久しぶりの自然にわくわく！みんなで夏野菜を植えました

今回の集団リハビリは、リハビリの一環として入院患者さまに“野菜の苗”を植えていただく「園芸祭り」が開催されました。

作業前には、準備体操とギターの弾き語りの披露が行われました。体操や弾き語りの最中では、患者さまが周りとの交流を楽しんでいる様子も伺えました。

苗は夏野菜の定番である「トマト」「ナス」「きゅうり」などをご用意いたしました。自分なりのこだわりを持って植える方や、

周りと話しながら丁寧に植える方など、各々の楽しみ方で作業を進めていきました。患者さまのなかには、農家や趣味で栽培を行っていた方も多くもあり、久しぶりに触れた自然の感覚に喜んでいただけたようです。



約2か月後のナス
すくすくと育っています▶



「感染対策研修会」を実施しました

◆コロナ5類移行後の対策について見直しました



▲講師：菊池副院長

5月上旬、新型コロナウイルスが季節性のインフルエンザと同じ5類へ移行したことで、医療提供体制や支援の見直しが行われました。しかし、コロナの感染力や危険性は変わっておらず、引き続き感染対策を行う必要があります。

当院は、「標準予防策」と呼ばれる基本的な感染症対策に加え、「経路別予防策」と呼ばれる病原体の感染経路に応じた予防策を実施しております。定期的な研修会を設け、対策の見直しや情報共有を行うことで、患者さまが安心して医療を受けられる環境づくりに努めております。



▲職員全体で日頃の感染対策の見直しや情報共有を行います



◆母と父に感謝した次は「親子の絆」を深める日

年に1度、親と子がともに向かい合う日があったっていい。
その日を通じて、すべての親子の絆が強められたら素晴らしい。

「親子の日」は米国人写真家ブルース・オズボーン氏のそんな願いから発足され、2003年に7月の第4日曜日の記念日として制定されました。きっかけは、とある撮影で日本社会を表すモチーフとして選んだ「親子」の姿に、独特かつ根本的な“人と人の関係”を見つけたオズボーン氏はその後も精力的に「親子」の写真を撮り続けています。みなさんは「親と過ごす時間」を大切にしていますか？この機にゆっくりと向きあってみてはいかがでしょうか。(事務員R)

入院・転院のご相談

<空所情報>※7/6現在
回復期病棟(8床) 療養病棟(0床)
ホームページで確認できます

医療法人社団誠和会長谷川病院
■地域連携部(MSW)：渡邊、山本、安部
TEL:043(444)0137
FAX:043(444)0257
HP:<http://www.hphasegawa.or.jp/wp/>

